



札幌市立真栄小学校

学校便り 第5号

令和8年7月24日

夏休みは、〇〇やったよ！

教頭 佐々木 隆元

本日、1学期の終業式が行われました。今学期は、学習活動の中で校区の公園や商業施設で学ぶ学年、外部講師の方を学校へ招き、出前授業から学ぶ学年がありました。すでに高学年は、2学期に実施される修学旅行や宿泊学習の準備にも取り掛かっています。また、清田区プールで行う水泳学習にも取り組みました。学級の仲間や先生方との学び合いも含めて、たくさんの学びがあった1学期でした。

さて、明日から夏休みに入ります。家庭での時間が増えるため、いつもより自分で考えて活動する時間も増えます。予め、宿題や各自の学習課題がありますので、夏休みの終わりまでには「やらなければいけないこと」はある程度、決まっているため、計画的に進める必要があります。ところが、自分の自由が利く時間の中で「計画的に行う」ことはとても難しく、時には自分に厳しくしなければなりません。大人でも自分で計画したことを実行するには、大きなエネルギーが必要です。そのようなことから、子ども自身が「自分が立てた計画通りに、学習を進める。」という目標を達成することは、簡単なようですがとても凄いことなのです。できたときは、ぜひ、お子さんをたくさん褒めてあげてほしいです。

また、子どもたちには、「夏休み」という時間の中で、子どもたちが、「何で？」や「おもしろい！」、「やってみたい！」と感じる瞬間を大切にしてほしいと思います。その瞬間が、自分の興味・関心を広げ、学びを深めるチャンスなのです。「何で？」や「おもしろい！」、「やってみたい！」と感じるきっかけは、いろいろなときに起きます。何か見ているとき…何かを読んでいるとき…何かやっているとき…にひょっとしたら、「大人との会話」をしているときにあるかもしれません。そこで沸き上がった興味・関心を大切に、自ら探求して「夏休みは、〇〇やったよ！」と自分に自信を持つことができる時間を作ってほしいと思います。2学期の始業式に子どもたちと会うことができたとき、「夏休み、〇〇やったよ！」と、子どもたちから頑張ったことをたくさん教えてもらえることを楽しみにしています。

最後になりましたが、保護者の皆様には学習ボランティア等の御協力、御支援などをいただきありがとうございました。夏休み期間中も、子どもたちが事故に遭わず、安心・安全に過ごすことができるようお子様へのお声掛けをお願いいたします。

日		曜	8月の行事予定
1	土		夏季休校日について 札幌市教育委員会では、昨今、全国的な課題となっている教職員の長時間勤務等への対応策として、「夏季休校日」の取組を実施しております。 これに伴い、本校では8月10日(月)～14日(金)の4日間を夏季休校日とし、年末年始の休日等と同様に、学校としての休校日とさせていただきますので、御理解と御協力をお願いいたします。 尚、この件に関するお問い合わせ窓口は、札幌市教育委員会教職員課 労務係(211-3853)となっております。
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		
7	金		
8	土		
9	日		
10	月	夏季休校日	
11	火	山の日	夏季休業中の連絡 転居や事故、入院など、緊急の御連絡がありましたら、学校へお知らせください。 真栄小学校 882-7925 (平日 8:20～16:30)
12	水	夏季休校日	
13	木	夏季休校日	
14	金	夏季休校日	
15	土		
16	日		
17	月		
18	火		
19	水		
20	木		
21	金		2学期始業式・下校指導 全学年4時間授業(給食あり) なわとび週間(～9月4日) 教育実習開始(1年1組・2年1組) スクールカウンセラー来校日(午後)
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木		
28	金		
29	土		
30	日		
31	月		委員会⑥ スクールカウンセラー来校日(午後)

《2学期始業式》

8月24日(月) 全学年4時間授業(給食あり)
持ち物などは、学年だよりを御覧ください。

子どもの命の大切さを 見つめ直す月間の取組について

札幌市教育委員会では、8月17日（月）から9月30日（水）までの約1か月間を「子どもの命の大切さを見つめ直す月間」としています。

真栄小学校では、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感し、安心して過ごすことができるように、以下のような取組を進めていきます。

◆一人一人の子どもをきめ細やかに見守る体制の構築

今年度も「シャボテンログ」を効果的に活用しています。「話したいボタン」を押した子どもへの声がけを組織的に行っています。元気のない子どもを見逃さないようにしています。

◆子どもたちが互いに助け合い、支え合う活動

いちょうっ子活動では、仲間と協力しながら楽しい活動を作り上げる体験を通して、自己有用感を高め、互いを認め合う取組を進めています。縦割り活動を通して、「優しい先輩」「あこがれる後輩」の関係性を築いていきます。

9月16日（水）のいちょうっ子遠足では、各学年の児童が自分の役割を果たしながら、異学年交流を通じて絆を深めようとする姿を目指します。

◆自他の命の大切さについて考えを深める学習活動の実施

9月26日の土曜参観で全学級、道徳の授業を公開いたします。自己肯定感や自己有用感を育むことをねらいとした取組です。

学習ボランティアへの御協力 ありがとうございます

お忙しい中、各学年で実施されている校外学習の保護者ボランティアに御協力いただきまして、ありがとうございます。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

3学期に実施予定のスキー場学習につきましても、前年度と同様に保護者ボランティアを募集する予定です。

夏休みのネットトラブル防止について

先日の参観懇談会で情報モラルについて話があったように、夏休み等の長期休業期間は、子どもたちがスマートフォン等の情報端末に触れる機会が多い期間です。改めて、御家庭でもお子様と一緒に夏休みの過ごし方をお話される際に、情報端末の使い方についてもお話をしてみてください。ネットトラブルのコラムとして1つ載せます。参考にしてみてください。

子どもが知らずに加害者に？ネットでの言葉の責任

「うちの子がネットいじめの加害者に？」—そんなことはないと思いたい。しかし、SNS やチャットアプリが日常に溶け込んだ今、子どもが軽い気持ちで書き込んだ一言が、誰かを深く傷つけてしまうことがあります。悪意がなくても、結果的に加害者になってしまうケースは少なくありません。

ネット上では、顔が見えない分、言葉の重みが軽く感じられがちです。「冗談のつもりだった」「みんなが言っていたから」—そんな理由で投稿された言葉が、相手にとっては深刻な攻撃になることもあります。特に子どもは、言葉の影響力や相手の受け取り方を十分に理解していないことが多く、無意識のうちに加害行為に加担してしまうことがあります。

保護者としてできることは、まず「ネットの言葉にも責任がある」という意識を子どもに持たせることです。画面の向こうには感情を持った人がいること、そして一度発信した言葉は簡単には消せないことを、具体的な事例を交えて伝えると効果的です。

また、家庭での会話も重要です。「こんな投稿を見たけど、どう思う？」「もし友達が傷ついていたらどうする？」といった問いかけを通じて、子ども自身が考える力を育てましょう。禁止や監視だけではなく、対話を通じて価値観を共有することが、予防につながります。

ネットは便利で楽しい場所ですが、同時に「言葉の責任」が問われる場でもあります。子どもが知らずに誰かを傷つけないよう、保護者としてできることはたくさんあります。まずは今日、子どもと「ネットでの言葉」について話してみませんか。